

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	加茂町立加茂小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	24
児童数	55	59	71	56	53	64	4	362	

研究の概要

1. 研究主題

ひとりひとりが生きる学びの創造
～学ぶ意欲と確かな学力をもつ子どもをめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・1～6年生 算数
子どもの理解度に差が出やすい教科であるため、全時間において実施する少人数授業などきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な内容の定着を図る。

(2) 年次ごとの計画

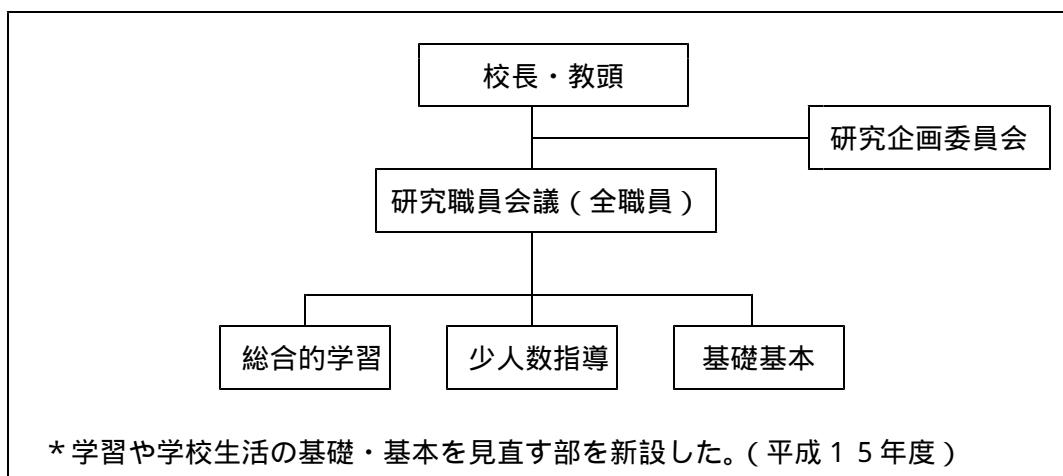
平成14年度	<p>テーマ ひとりひとりが生きる学びの創造 ～学ぶ意欲と確かな学力をもつ子どもをめざして～</p> <p>研究の見直し（仮説） 基礎的・基本的な学習内容の習得を図るきめ細かな指導等の推進をし、総合的な学習の時間と各教科等との関連や連携を深めれば、学ぶ意欲と確かな学力をもった子どもが育つであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の捉え方の共通理解 ・実践研究計画立案、研究内容、方法の年間計画の作成 ・実践研究内容の効果的な実施のための教育課程の工夫 ・先進校の視察、他のフロンティアスクールの授業公開等への参加 ・授業研究を中心とした実践研究の推進 ・個に応じた学習教材の開発 ・児童の実態に応じた少人数指導（機械的な等数分割グループ・習熟度別グループ）とTT指導の実施 ・ポートフォリオの手法を取り入れた評価の工夫 ・学力調査と実態調査等（児童、保護者、教職員）の実施 ・「学校支援推進委員会」等開催による地域との連携、推進と地域人材の活用
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 平成14年度と同じ 研究の見直し(仮説) 平成14年度と同じ 研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の研究成果や課題を踏まえた実践の修正及び実践研究内容、方法等の焦点化や拡充と2年次の研究計画立案 ・実践研究体制の修正 ・実践研究内容の効果的な実施のための教育課程の見直しと創意工夫 ・先進校等の視察、他のフロンティアスクールの授業公開等への参加 ・実践研究(島根県教育研究大会大原大会での公開授業他) ・指導に生かす評価の在り方についての工夫・改善 ・定期的な学力調査の実施・分析 ・実態調査等(児童、保護者、教職員)の実施 ・「学校支援推進委員会」開催等による地域との連携、推進と地域人材の活用
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 平成14年度と同じ 研究の見直し(仮説) 平成14年度と同じ 研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2年次の成果や課題を踏まえた実践の修正及び実践研究内容、方法等の焦点化や拡充と3年次の研究計画立案 ・実践研究内容の効果的な実施のための教育課程の見直しと創意工夫 ・実践研究体制の修正 ・実践研究(公開授業他) ・先進校等の視察、他のフロンティアスクールの授業公開等への参加 ・指導に生かす評価の在り方についての工夫・改善 ・定期的な学力調査の実施・分析 ・実態調査等(児童、保護者、教職員)の実施 ・「学校支援推進委員会」開催等による地域との連携、推進と地域人材の活用
----------------	--

(3) 研究推進体制

フロンティアスクールとしての実践研究組織図



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 補充的な学習のための教具として、数図ブロックや百玉そろばん等を用いて学習したり、パソコンを使ってゲームなどをしたことは、児童が具体的な活動を通して楽しく学習内容を理解したり、習熟したりすることに役立った。(児童の取り組みの様子から)
- ・ 児童の実態や単元に応じて、T T指導や少人数指導等、学習形態を工夫した授業を実施したことで、児童一人一人の姿がよく見え、きめ細かな指導が行えるようになった。これにより、児童の学習に対する関心・意欲・態度が向上してきた。また、学習内容の定着という点でも効果が上がってきた。(教員へのアンケートから)
- ・ 朝自習の時間を利用した計算力向上のためのチャレンジタイムを行ったことで基本的な計算の力が少しずつ身についてきた。また、月1回校内一斉に「チャレンジスキル会(計算・書取会)」を実施したことで、それを励みに進んで練習に取り組む児童が増えた。(テストの結果、児童の取り組みの様子や児童の感想から)
- ・ 効果的な指導についての情報交換や研修ができ、指導方法や児童に対する接し方、評価の仕方等について、教師自身の視野が広がった。
- ・ 昨年度1月に実施した保護者へのアンケート結果では「少人数指導は良いことだと思う」「チャレンジスキル会は目標ができてとてもよい」という意見が多かった。学力向上フロンティアに対する保護者の評価は概ね良いと考える。(15年度は16年2月実施予定)

2. 今後の課題

- ・ 個に応じた指導のための教材開発やその活用の仕方を研修する。
- ・ 児童の実態に合わせて単元計画を見直しながら、指導効果のあがるT T指導や少人数指導の在り方を探り、きめ細かな指導の推進を図る。
- ・ 指導に生かせる評価の在り方や、評価計画を工夫する。
- ・ 情報提供による家庭・地域との合意形成をさらに進める。
- ・ 教科担任制や地域の教育力を活用する。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 定期的な学力調査の実施(2月)
取り組みの成果を把握し、今後の研究の改善に生かす。
- ・ 実態調査等の実施(児童、保護者、教職員)(2月)
取り組みの成果を把握し、今後の指導の改善に生かす。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 町広報「かも」や研究情報誌「魅ドリーム」による研究の取り組みの情報発信
- ・ ホームページの作成 (<http://serv.kamo-e.shimane.schoolnet.gr.jp/>)
- ・ 研究発表会 平成15年10月28日(算数科・家庭科・総合的な学習の時間)

- ~~~~~
- | | | | | |
|----------------------|---|--|--|-----------------------------|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下 | <input type="checkbox"/> 7～12学級 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| | <input type="checkbox"/> 一部教科担任制 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【研究教科】 | <input type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | <input type="checkbox"/> 理科 |
| | <input type="checkbox"/> 生活 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 図画工作 | <input type="checkbox"/> 家庭 |
| | <input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| | | | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | |